

第52回教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2014年7月27日(日) 13:00-17:10 私立海城高校

2 参加者

河潟、矢島み、根本、渡邊、瀧上、宮嶋、川村、上村、畠山、
(地理) 秋本(獨協大)、碓井(奈良大)、井田(筑波大)、浅川(浦和第一女子高校)、
山本(早大本庄高等学院)、

3 今回の合同小委員会の開催趣旨の説明と参加者紹介

宮嶋委員長から、地理系との情報交換のため、今回の小委員会に地理教育に関わる担当者を招いたことの説明があった。また、JpGU教育検討委員でもある秋本委員から、地理系の参加者の学会での役割等の説明があった。

4 前回議事録の確認

地理系との情報交換開催に関する文言を追加し、それ以外は議事録案の通りに承認された。

5 中教審関連・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

○中教審関連

- ・大学入試到達度テストの議論が行われ、教育課程部会・理科専門部会の審議は一切進んでいないとの報告があった。
- ・次期学習指導要領改訂の諮問が9月にも行われる可能性があるが、文科大臣の人選によっては、中教審への諮問内容に大きな影響がある可能性が話題となった。

○理数系学会・他研究団体等

- ・理数系学会連絡協議会が10/26(日)に今後の理数系教育に関するシンポジウムを開催する件について、理学系と工学系が一体となって、専門家を育てる教育から市民教育へというテーマで議論が行うという素案が畠山委員から提案され、概ね了承した。

○その他

- ・宮嶋委員から、学術会議小委員会(科学と社会委員会・科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会)の現在の審議状況と、天文系の考える「理科基礎」の内容について説明があった。

6 次期学習指導要領改訂に関する地理系と地学系の情報交換

(1) 地学系のこれまでの動きについて

宮嶋委員長から、今年の連合大会でのパブリックセッション「次期学習指導要領における高校地学教育のあり方」での発表概要についてセッション資料に基づいて説明がなされた。

(2) 地理系のこれまでの動き(地理基礎・歴史基礎の検討経緯)

碓井委員から、地理基礎・歴史基礎の設置について、学術会議の提言、それに基づく研究協力校での教育実践を踏まえ、次期学習指導要領改訂ではほぼ実現の見通しであったが、2014年1月の文科大臣による日本史必修の発言によって、状況が全く不透明になった旨の説明があった。

(3) 地理と地学の共通する分野の扱い、棲み分けについて

以下のような観点での議論がなされた。

- ・学習指導要領改訂で科目融合による新教科が検討されるようだと、地理と地学はクローズアップされるだろう。その場合、天文の扱いが問題になる。
- ・地理も地学も社会との関連、貢献という視点が大切になってくる。

(4) 今後の活動・連携について

今後も情報交換を密にするべく、教育課程小委員会のMLに地理系の5人の方々を加え、地理系のMLに教育課程小委員会から宮嶋委員、瀧上委員、根本委員が参加することを確認した。今後も必要に応じて、地理系のメンバーの参加を求めることにした。

6 協議

(1) 各種総合理科の比較検討について

次回以降、必要に応じて、関係者を招いて学習会を行うことを確認した。

(2) 今後の活動について

- ・ABC案の検討について、各WGごとに議論を行うことを確認した。
- ・他研究団体との意見交換について、各研究団体の研究集会に参加するなど、情報交換に務めることを確認した。8/11の天文教育研究会には瀧上委員が参加する。

7 次回小委員会

9月末頃を目途に、メールで各委員の日程を調整して会議を設定することを確認した。